

リリマジ9開催記念

あと、はやてと佳奈様

ハッピーバースデー

M^{メッセーじペーパー}P のつもりが

長くなりすぎて

ペラ本になったもの

なのはStS／SSS

休日の午後二時——

クラナガン放送にて

北乃ゆうひ

Oh! テフニング

——というわけで、本日の道路
交通情報でした。

リスナーの昼下がりを灰色に彩
る約二時間。シノ・ケカオンの**O
h! テフニング**ここから後半戦。今
日は前半に引き続き、管理局の小
娘さんの一人に付き合ってもらい
ます、と。

「こちら（笑）。ちゃんと紹介してく
ださいよ」

——じゃあ、自分でどうぞ。

「えーっと、改めまして高町なの
はです。後半戦もよろしくお願い
します」

——ちなみに、僕が彼女を小娘
よばわりしてるのは、えーっと、
何だっけな。彼女がまだ、管理局
の期待の星だったのか、管理局の
アイドルだったのか……あるいは、
赤い帽子を被ったヒゲの土管工だ
ったのか、イマイチ世間からの扱
いがよく分からなかった頃にあっ
た、雑誌の企画でね、対談企画が
あって、その時が初対面だったん
だけだ。

（あはははは）

「そうそう。あの時、ブロック壊
したり、カメを踏んづけたりしな
がら、うっかり私が、シノさんの
方が年上なんだし、私なんて小娘
扱いで構いませんよ——なんて言

っちゃたら、それからずーっと小
娘呼びなのこの人」

（くくく……ははは）

——僕は君が何歳になろうと、
小娘と呼ぶコトを今、ここに誓い
ます、と。

「誓わないでください」

——無視。さて、ダイレクトメ
ッセーじボックス、開けっ放しに
なっていますので、ちよいと一枚。

「はいはいどうぞ」

——ラジオネーム、『梅干しはす
っぱい』。なんか、すごい好きだこ
の名前。

「普通なのが良い味だしてますよ
ね」

——なんか面白くなっちゃう。
普通なのに。梅干しはすっぱい。

梅干しはすっぱい……（笑）

（あははははは）

「分かりましたから、はやく読ん
でくださいよ（笑）」

——もうちよっと梅干しすっぴ

したいんだけど仕方ない。すっばいしたいって何だよ！

(あはは)

「いいから読む！」

——はい。

前半から楽しませてもらってます。でいーぶいでいー舍めて、なんだか管理局員の方々のイメージがらよーとだけ変わった気がします。

「ありがとうございます。でも、だいたいの人は多分、イメージ通りですんで、私みたいのはきつと例外かなあ」

——まあそうだろうな。

どんなネタが飛び出してくるのか、後半戦も楽しみます。ラジオで喋るということは初めてでしゅうから、大変だとは思いますが、なのはさん、頑張って下さい。

「幼馴染みのお姉さんに、出身世界で知らない人は居ないってくらい歌姫さんがいまして、その関

係でちよろつと現場に行ったり、その場ののりでブースに放り込まれたりしたので、実は初めてじゃなかったりします」

——それにしたって、トーク慣れ過ぎてる気がします、話題はとりあえずでいーぶいでいーだな。「あれはねー……ひどかったの。前半でも話したけど」

——いやー、俺はすげー好きだよああいうの。

「知ってます」

——最高だったね。似たような計画を若手芸人にしてやろうと思つてたのにやられた！って感じ。

「やられたくなのはこっちですよー。そもそも撮影だつて話すら聞かされてなかったんですから」

——じゃ、ほんとただの飲み会だと思つてたんだ？

「そーなんですよー」

——ひつでー(笑)

(あはははははははははは)

まじ尊敬する(爆笑)

(わははははははははは)

「ひどいのはどっちー!？」

——あははははは！ いやいやいや、最高ですよ実際。

「くやしいので、仕返しを用意してます」

——らしいね。この番組中にやるんではよ？

「そうそう。シノさんとか、基本ブースの中で笑つてるだけの構成のヤタノベさんには事前に言つておいたんですけれども」

(うんうん)

——今、丁度裏でやつてるおつしやれえええな、ラジオ番組に八神はやて特別捜査官が、だいたいこの小娘と似たような理由で生放送にゲストで出てるらしいのよ。

「そうそう。それでですねえ、ここに私の出身世界でメジャーな通信端末が『ケータイ』ってのがありまして、もちろん、はやてちゃ

んも持ってます。まあプライベートな端末ですから、ブースの中では電源を切ってるとは思うんですが……」

——何よ？ 勝手に電源が入る細工でもしてきた？

「ん」

——放送事故だけは気を付けてよ？

「さすがに、気を付けますよー」

面白い事故起きちゃってリスナー取られるの嫌だから。

「そっち！」

(あははははは)

——それ以外何があるんだよ！リスナー、超大事！番組台無しな事故は大歓迎！なお当番組は絶対責任とりません！

(ははははは)

「ですよー。ま、しませんよ。で、話の続きですけど」

——はいはい。

「事前にはやてちゃんのケータイ

にはウイルスっぽいプログラムを仕込んでありまして、そろそろ電源が入って、さも今まさにメールが届いたかの如く、着信音がなります」

——番組中、端末の呼び出しコールとか普通にダメな事故だよ！「気にしちゃ行けません。私は気にしません」

——おい！（笑）

(あはははははは)

「ほいでー、七分ごとに着信コールなります！メール本文には数字のみ！」

——数字？

「そうそう。最初は5。次は4」

——カウントダウン？

「いえす！ いぐざくとりー！」
——なに？ ゼロになると何が起きるの？

「それはいいませんよー。生ですから。こつちのリスナーがはやてちゃんにチクらないとも限りませ

ん。向うもダイレクトメッセージボックス使ってますし！」

——お？ どうやら届いて焦ってるみたいだなー。ブースの外にいる連中が向うの番組を、お尻を出しながら聞いてますんでねー、そのお尻でサイン出してくれてます。

(ぶははははは！)

「にやはは、分かり辛いから、普通に紙とかに描いて下さいよー」

——ま、何かあったら全部、ブースの中で笑ってる構成のヤタノベのせいですから。

「そうそう。シノさんも私も基本的に台本通りにしかしゃべってないですから」

——小娘のこのイタズラも台本通りだから。えーっと、F M M C局さんで、何か文句がありましたら、うちの局じゃ無くてヤタノベに直接言っして下さい。

「私とシノさんは何も悪いコトは

していませーん」

——全部ヤタノベの掌の上。セリフも仕草も雰囲気も、ぜーんぶ台本通りだからな？

(わはははははは)

「そんなワケなんで、FMMCの方。なのはの小さないたずら、許してね☆」

——小さくねえから！

(くははははははははは)

ウーマンズ・ウーマン

——今週も始まりました、働く女性の休日に、素敵なひとときをお送りするウーマンズ・ウーマン。お相手は私、ユン・ハーキライト。そして、本日、私と一緒にお相手して下さるゲストは、この方。

時空管理局のトライエースと呼ばれる三人の女性魔導師の一人、あのJS事件を解決へと導いた立役

者の一人でもあります、元機動六課部長、現在は特別捜査官をしております、八神はやてさんです。「どうもー。八神はやてですー。えらいカッコいいご紹介預かりましたけど、そんな大層なもんでもなく、ただの小娘ですんでー」

——いえいえ、ご謙遜なさらずに。最近では。はやてさんが監修なされた映像ソフトを出されてますね。

「でいーぶいでいーですね。あれは監修というか、半分悪ふざけやつたんですけど、妙に番組スタッフから評判よくてですねー、なんや気が付くと特別版とまで出してくれるようで。ほんま、ありがたいコトです」

——私も見せて頂きましたが、ヒドイ内容でしたねえ……あ、褒めてますよ？(笑)

「あははは。人によつてはほんとダメや言う人がおるコアなネタに

なつてしまつてるようでして……：せやけど、あれも癒し——っちゃうんとちよう違うか——えーつと……軽い息抜きみたいな、みんな普段は気を張つてお仕事してますから、ああいう、本当の意味での危険が隣にない緊張感つて貴重なんですよー」

——そうですね。執務官さんや、防災士長さん達ですもんね。みなさん時間もなかなか合わないでしょうし、そう言われますと、あの収録中はとて貴重なのですね。

「そうですー」

——それと……で、お便りをつ。私も同じコトを思ってますが……ネージユさんからです。ありがとうございます。

ユンさん、そしてゲストの八神はやてさん。こんにちわ。

——こんにちわ。

「こんにちわー」

八神はやてのでいゝぶでいゝ、
楽しくは見させて頂きました。

「いやーありがたいことです」

見ていて思ったのですが、前半
の和気藹々とした食事も、後半の
いたずらの時も、何だかみなさん
の反応がとても普通の人で、管理
局の魔導師というイメージがなん
となく良い意味で崩れた気がしま
した。これからも、お仕事がんば
ってください。それと、また機会
がありましたら、このでいゝぶい
でいゝのような企画も遣って頂け
たらと思います。では。

——と、いうワケです。ね……

わたしも、申し訳ないんですけど、
管理局の魔導師さんでちよっと、
怖いって思ってたんですけど、本
当にみなさん、食事の時とか普通
の女性という感じでして、休日の
姿は私達と変わらないんだあと。

「まあ、魔法ぶっ放してドカンド
カンやってますからねー。そうい

うイメージを持たれてもしやーな
いと思いますよ。それでも、魔法
が使えるってだけの普通の人なん
ですよ……っていうのを見せる
んがでいゝぶいでいゝの当初の目
的でしたから、そういう風に思っ
て頂けたら幸いです。ありがとう
ございます」

——なるほど、だとしたら本当
に成功だったんですね、でいゝぶ
いでいゝは。そうそう実は聞きた
いことが……

♪ ぱんつ♪とおっぱい♪

♪ ゆめ いっぱい ♪

——え？

「わわわわわ！ すいません、プ
ライベート端末の電源切っとくん
忘れとつたみたいです」

——いえいえ。こういう小さな
ミスはむしろ生放送の醍醐味です
の。

「あ、あははは……」

——その、変なコト訊いてごめ

んなさいね。何だか珍しい端末で
すけど……

「ああ。これですね……出身世
界で流通しとりますケータイいう
端末です。現地の友達なんかとや
りとりするのに使ってるんです」

——なるほど。差し支えなけれ
ば、今のメール？ ですか？ 内
容訊いてもよろしいですか？

「大した内容じゃあらへんと思ひ
ますけど……えーつと……あれ？

なのはちゃんから？」

——なのはさんと言いますと、
教導隊の高町なのは一等空尉です
か？

「そうです。でも、おかしいです
ね。彼女、ちやうど裏番組に生出
演しとるはずなんですけど……内
容は——件名【**はっぴーなごひん**】
仕返っ今(今)!】……え？

——おや？

「本文【**じゅーすいゝのはだよー☆**
はやてちゃんのケータイをちやうど

弄って、勝手に電源が入るようにして
みたんだ。にゃははは」……なんや、

テンション高いな！「電源切って

も時間になると勝手に電源が入るから切っても無駄だからねー。でいゝぶいでいゝのお返し、覚悟しておくよーに♪ PS ヴィヴィオを変なコトに使った仕返しの方が正しいかも！」

——もしかして、一等空尉はいぶ怒られているんですか？

「たぶんジョークやと思いますよー。さすがに放送事故につながる、まずいネタはせえへんでしょうから」

♪ばんつ♪とおっぱい♪

「とりあえず、受信メロディの設定は変更しときます（照）」

——はい。そうしてください（笑）

「今度の件名はカウントダウン開始。本文は〔5〕ひと文字……ゼロ口になったら何がおきるん？」

——ちよつと楽しみですね。

「あ、あはは……わたしは不安し

かあらへんですけれど……」

Oh! テフニング

——さてきて、とりあえず、もう一枚くらい、ダイレクトメッセージボックス除きましようかと、と。

「はいはい」

——えーっと、ラジオネーム……『ちからこそパワー』。お二人ともこんにちわ。

「こんにちわー♪」

前半戦楽しく聞かせて頂きました。・管理局の魔導師である兄が、なのはさんは管理局一の般若教官だなんだと言っておりまして、どんな恐ろしい女性なのだろうと思っていました。が、
「そのお兄さんの名前、後でこっそり教えてね☆」

——怖っ（笑）えーっと……

シノさんの悪ノリトークに悪ノ

リとかぶせて話を膨らませるのが上手で、何でも笑わせてもらってます。笑いすぎて腹筋が筋肉痛になりそうです。助けて下さい。

「それはねえ、むしろカッコよく割れるまで笑い続ければいいと思うよ。腹筋。そしたら取材とかあるかもだよ。『実録・この腹筋はこう鍛えた!』みたいな。

——それ放送されたら、ミッド中に笑い声が響き渡りそうだよね。年がら年中さ。

「みんなが笑顔なのはいいコトだとなのはは思いますよ」

——しみじみ言ってるけど、ぶっちゃけ不気味なだけだからなそれ！

ところで、前半でもシノさんが言っていましたけど、お二人は時々ブライベートでもお付き合ひがあるそうですね。

——どっちゃかっていうと、なのはと俺の嫁さんの付き合いのがあ

るんだけどね。うん。

シノさんはなのはさんのお宅に行ったことがあるのでしょうか？
あったのでしたらどんなご家庭でしたか？ よろしければ教えて下さい。

「君はそれを知ってどーしたいの？」

——決まってるでしょ？ こっそり覗きに行くんだよ。言わせんな恥ずかしい。

「ちょ……っ！　じゃあ話ちやダメです」

——えーっと、今の高町邸はです……クラナガンの郊外西のですね……

「だーめーですってー！」

——三十キロ行った辺りにあるあの有名な樹海の中にあります。

「え？」

（ふふはは）

——一番自殺者が多い区域にぽつねんと経っているほっ立て小屋。

そこにね、自殺しに来たけど自殺しきれない人が暮らしてるんだよ。

（急に声のトーン落として）そこでは……チヅルという少女が中心になって……

「なんかホラー調ッ!」

（はははははは）

メンバーが一人減る毎に、新しい自殺者を説得して、メンバーに加えているのでした。彼女は必ず自分を含めて五人のメンバーを作ります。なぜかという、まだ質量兵器の使用が禁止されていなかった旧暦の頃、五機の戦闘機からなる戦闘部隊のメンバーの紅一点……それが彼女だったからです。

ところが、戦闘中に自分を除く四人が戦死してしまったのです。特殊な素養が必要となる戦闘機故に、チヅルは他のメンバーを探すように司令部から命令されます。探して探して、結局見つからず、そして見つからずのうちに終戦してし

まったのです。

「その頃が忘れられずに、死してなおも自分の眼鏡に適う新たなメンバーを探してるんですね……」
ところで、私の家の話は？」

忘れてた！ 何だよ戦闘機部隊って！ 誰だよチヅルって！ ダメだななのは！

「わたしッ!」

（あははははは！）

——もっと早くツツコミ入れてよ！ ……で、えーと、そのほってたて小屋の囲炉裏が実はなのの家……っていうか、なのは王国の入口の一つなんだよ。

「そうそう。入口のカムフラージュの為の小屋なのにいつの間にか幽霊が住み着いて困っちゃってるの」

——ちなみにさっきの戦闘機は五機が合体してロボットになるから！ 名前は『エルバトラーV』。今、思いついた！

——ではでは、ちよいと一息、曲に行つて、CMです。

「あ、カウント3のメールが届いたみたいですね」

——なんか、俺もドキドキしてきた。えーつと、曲。古代ベルカ語なんで読めないです。このグループ名。

(あはははは)

なんかそいつらの、『焦げた大地を越えて』とかなんかそんな曲！「ええつと、たぶん、アインスフランベかなあ、これ？」

——だそうです。

「ちゃんと紹介しなさいってまったく！（笑）」

ウーマンズ・ウーマン

——さて、本日のウーマンズ・ウーマン、そろそろエンディングのお時間になりました。えつと…

：顔が真つ青になつてますけど大丈夫ですか？

「いやー…迷惑かけてしもうてすみませんですー」

——いえいえ。結局、ゼロにはなつてないみたいですし。

「強がつてみたんですけれど、やっぱり心臓に悪いんですよー、もう今めっちゃビビってます。こんだけ期待させて何も起きなかったらどないしよーつて」

——そつちですか（笑）

「嘘です。普通にビビつとります」

♪ 冷^レコーにフレッシユ♪

♪ つゆだくで♪

——あ、来ましたね。

「うわ…なんかめっちゃドキドキするんやけど！」

——申し訳ないと思ひながらも個人的にはとても楽しみにしていた瞬間ですので、はやてさんとは別の意味でドキドキしております。「なんだかんだで、楽しんでます

ねユンさん」

——ええ。最終的に誰も損をや傷なく終わるドッキリでしたら大歓迎ですの。

「ユンさんの意外な一面を知った気がしますーそれでは、ぽち…と」

『どつかうん♪』

「うおう!? 音声データ!？」

——やっぱり、テンションが高いようですね。

「なんなんやろうなこのテンション?」

『今日は、地球の日本時間において六月四日です!』

「……あ」

——?

『そんなワケで、せうの……』

はやてちゃん。 お誕生日おめでとう！

——あら。おめでとうござい
す。

「うあ。なんやこれ……え？」

——なのはさん以外のお声が
ありましたけど、お友達ですか？

「え？ あ？ はい……えっと、

執務官のフェイトちゃんと、故郷
の友達のアリサちゃん、すずかち
やんの声やと思うんですけど……
えっと……ドッキリ系の身構えし
たらとんだサブライズで、サブラ
イズ過ぎて、どうしてよいやら……
う、うれしーんやけど、なんや
——メツチャ嬉しいのに、素直に
喜べへん……」

——もう少し、可愛いらしく困
惑しております、はやてさんとお
話したかったのですが、今日はも

うお別れのお時間みたいなよう
です。

「な、なんや。最後がこんなんで
ほんと、申し訳あらへんです」

——いいえ。その驚き方、と
つても可愛らしくて素敵ですよ。

「……お、おおきにでしゅうう……」

——それでは、本日は一時間
のお付き合ひ、はやてさんありがと
うございました。

「いやいやいや、こちらこそお呼
び頂ありがとうございました」

——この時間のお相手はユン・
ハーキライトと、

「八神はやてでした」

——それではまた来週、この時
間にお会いしましょう。では。

Oh! テニシング

——爆発とかはしないの？

「しませんが」
(あはははは)

——なんだ、ただの誕生日メッ
セージかよー。

「いやでもほら！ はやてちゃん
の身構えてたのに、『お誕生日メッ
セージ』が来て、嬉しいのに、身
構えてたはやてちゃんからすると
感じる、やられた感みたいなのヤツ
のせいで素直に喜べない、あの感
じ……ペルソナコレクシオンテン
フェイスに使えるそうじゃないで
すか？」

——それ聞いて思い出したよ。
コーナー。二時間しやべってて結
局、一つもやってねーのな。

「そう言えバ！」

——そして、時間がねえ！

「え？」

——そんなワケで今日のお相手
は、微笑みの豚シノ・ケカオンと、
時空管理局の白い悪魔こと……

「え？ ちょ……ッ！ 何そのフ

リ!? 私そんなじゃ…いや、えつと。あ！ 高町なのはでした!!」
——じゃあ、来週もよろしく!
「いつも通りなんだけど本当に現場レベルでグダグダのまま終わるんですねこの番組！」
(あはははははははははは！)

【Takamachi Nanoha no

Itazura Siro Usagi - closed.】

おまけのおまけ。

「フェイトママ？ どこ行くの？」
「知らなかったんだ私……」
「え？」
「なのはが……まさか、あんなに腐葉土を恋しがってただなんて!」
「いや、ちょ……っ！ フェイトママ!」
「ごめんねヴィヴィオ。ちよつと腐葉土買いに、園芸店に行つてく

る!!」

「なんて硬い決意ッ!? つて、そうじゃなくって、あれはお話の……あ、もういない……」
そうして、なのはが家に戻つてくると腐葉土の袋を抱きしめて、るフェイトがリビングで泣いていたらとこないとか。

【omake - closed.】

あとがき

えーつと、ひどい話ですみません。あと、文字が小さくて読みづらいのは、前作のバレンタインのように両面印刷一枚で済ませるつもりだったから……気が付いたらこの量だよ!

まあ本気で好き勝手やったから楽しかったのでもいいやw
では、みなさん、こんな読みにくいものに付き合つて下さいあり

がとうございました。

途中でなのはを書いているのかゆかりんを書いているのか分からなくなりましたが、それはご愛敬というこうとで。

あ、ともに本文に組み込めなかった事柄が一つ。

佳奈サマお誕生日おめでとう！
今更かよつてツツコミの気配を感じつつ……幕

【20 / 06 / 2010 日 9 - MP -

Aogaki mini - closed.】

リリマジ9開催記念 あと、はやとと佳奈様 ハッピーバースデーメッセージペーパー P のつもりが長くなりすぎてペラ本になったもの

二〇一〇年 六月二十日

初版 発行

製作・編集 North SunSet

